

目 次

第16講	欧米社会の成立と発展(1)	2
第17講	欧米社会の成立と発展(2)	10
第18講	欧米近代国家の発展(1)	18
第19講	欧米近代国家の発展(2)	26
第20講	列強の進出とアジアの動揺	34
第21講	帝国主義の成立と欧米列強の国情	42
第22講	アジア諸国の改革と民族主義運動	50
第23講	第一次世界大戦とロシア革命	58
第24講	戦間期の国際協調と欧米の動向	66
第25講	戦間期のアジア・アフリカ	74
第26講	世界恐慌とファシズムの台頭	82
第27講	第二次世界大戦	90
第28講	冷戦の開始とアジアの情勢	98
第29講	冷戦の展開とアジア・アフリカの動向	106
第30講	現代の世界と文化	114
一問一答①⑥～③⑩		122

# 第20講 >>> 列強の進出とアジアの動揺

## 基礎学習

● [ ] の中に適切な語句を入れて、要点を整理しよう。(解答は解答解説 P.9)

### 1 イスラーム世界とインド・東南アジア

#### この講の流れ図

オスマン帝国	イラン	アフガニスタン	インド	東南アジア
17～18世紀にかけハンガリーや黒海北岸などヨーロッパ勢力により領土喪失	カージャーール朝の成立 (1796年)	アフガニスタン王国成立 (1747年)	プラッシーの戦い (1757年)	スペイン：16世紀以来、マニラを拠点としてフィリピンを支配
ギリシア独立 (1829年)	トルコマンチャーイ条約 (1828年)	第1次アフガン戦争でイギリスに勝利 (1838～1842年)	イギリスの支配拡大 マイソール戦争 マラータ戦争 シク戦争	オランダ：ジャワ島・スマトラ島他でオランダ領東インドを形成 ジャワで強制栽培を実施 (19世紀)
エジプト＝トルコ戦争 (1831～1833/1839～1840年)	バーブ教徒の乱 (1848～1850年)		インド大反乱 (1857～1859年)	フランス：19世紀末にベトナム・カンボジア・ラオスでインドシナ連邦形成
タンジマート開始 (1839年)		第2次アフガン戦争で敗れイギリスの保護国化 (1880年)	インド帝国成立 (1877年)	イギリス：19世紀中にセイロン・ビルマ・マレー半島を植民地化
ミドハト憲法 (1876年)				
露土戦争でセルビア・モンテネグロ・ルーマニア独立 (1878年)				

#### (1) オスマン帝国の動揺

- 領土の縮小……1683年の第2次 [ ] 包囲の失敗後、1699年のカルロヴィッツ条約でオーストリアに [ ] 他を割譲し、また18世紀後半にはロシアに黒海北岸地域を奪われた。
- 被支配民族の台頭
  - アラビア半島では、18世紀中ごろ [ ] 派が豪族サウード家と手を結び王国を建てた。
  - エジプトでは、1805年にオスマン帝国から総督に任命された [ ] が富国強兵に努め、オスマン帝国に協力して [ ] 王国を滅ぼし(1818年)、 [ ] 独立戦争(1821～1829年)に派兵した。しかし、シリアの統治権を要求したことからエジプト＝トルコ戦争(1831～1833/1839～1840年)となり、その結果、彼はエジプト＝スーダン総督の地位の世襲を認められ、オスマン帝国から完全に自立した。
  - 支配下のスラブ諸民族の独立運動を支援するロシアとの間に露土戦争(1877～1878年)がおき、オスマン帝国は敗北し、ベルリン条約で [ ] ・モンテネグロ・ [ ] の独立を認めた。
- 近代化の動き……1839年、アブデュル＝メジト1世はギュルハネ勅令を発して [ ] を開始。1876年に [ ] 憲法(アジア初の憲法)を制定公布したが、露土戦争の勃発で停止(1878年)。

#### (2) イラン・アフガニスタンの情勢妙

- イラン……18世紀末、テヘランを都とする [ ] が起こった。英・露の進出にあい、1828年にはトルコマンチャーイ条約を結んでロシアにアルメニアを割譲し治外法権を認めた。そして外国の進出や経済的混乱を背景に、政治や社会の改革を訴える [ ] の乱(1848～1850年)が起こった。
- アフガニスタン……18世紀半ばに王国を建て独立を維持してきたが、 [ ] の進出にあい、

第1次アフガン戦争(1838~1842年)を経て、第2次アフガン戦争(1878~1880年)で敗れその保護国となった。

### (3) イギリスのインド支配

- ① ムガル帝国の衰退……17世紀後半以降、インド西部のラージプート族、デカン高原の [ ] およびパンジャブ地方の [ ] 教徒の反抗によりムガル帝国は衰退に向かった。
- ② 英・仏の抗争……17世紀、イギリスは [ ] ・マドラス・カルカッタを、フランスはシャンデルナゴル・ [ ] を拠点にインド進出を企てた。そして18世紀後半、イギリスがカーナティック戦争、次いでクライヴの活躍で [ ] の戦いに勝利しインドでの覇権を掌握した。
- ③ イギリスのインド支配
  - 東インド会社は1765年にベンガル地方でのディーワーニー(徴税権)を獲得し、次いで18世紀後半から19世紀半ばにかけ [ ] 戦争、マラータ戦争、シク戦争に勝利して支配を全インドに拡大した。そして旧来の地主・豪族に徴税をまかせる [ ] 制(北部)や一般農民から直接徴税するライヤットワーリー制(南部)を実施してインド人の富を収奪した。
  - 東インド会社の [ ] 廃止(1813年)や [ ] 停止(1833年)により、インドはイギリス産業資本の自由な市場として開放されることになった。このため大量のイギリス綿布が流入してインド綿業は打撃を受け、インドはイギリス綿業の市場と原料供給地に転落した。
  - 1857年に東インド会社の [ ] (インド人傭兵)が大反乱(~1859年)をおこした。反乱軍は名目だけの存在であったムガル皇帝を擁立したが、反乱は鎮圧されてムガル帝国は滅亡した(1858年)。
  - 1858年、イギリスはこれまでインド統治を担ってきた東インド会社を解散し、次いで1877年、ディズレーリ内閣は [ ] を初代皇帝とするインド帝国(1877~1947年)を樹立した。

### (4) 列強の東南アジア進出

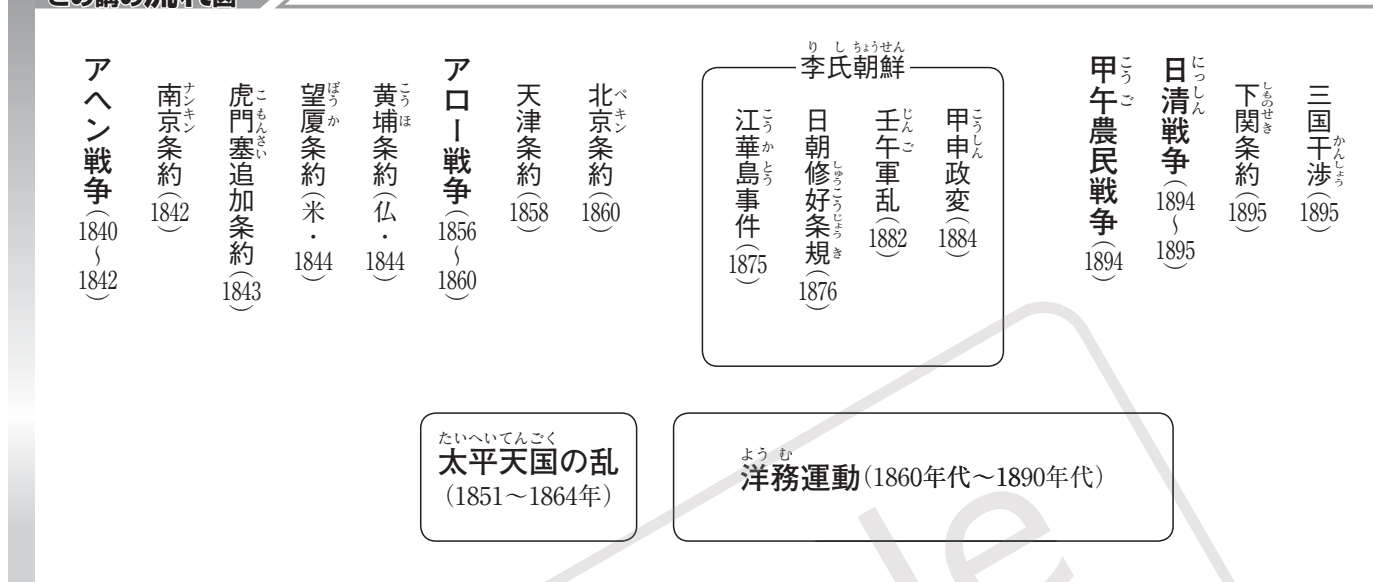
- ① スペイン……1571年、 [ ] を建設しフィリピン支配を本格化した。彼らは原住民をカトリックに改宗させ、また中国商人から絹織物などを購入してメキシコ銀で支払う太平洋の貿易ルートを開いた。
- ② オランダ
  - 1619年にジャワ島に [ ] を建設し、次いで1623年の [ ] でイギリスをモルッカ諸島から追放してインドネシア海域を勢力圏とし、 [ ] 植民地の形成に向かった。
  - 1830年ごろから総督ファン＝デン＝ボスが、ジャワ島で農民にコーヒー・サトウキビなど商品作物を作付けさせ、安価に買い上げてヨーロッパに輸出し利益を上げるという [ ] を始めた。しかし農村で飢饉が頻発したこともあって徐々に廃止された。
  - ジャワ島からスマトラ島へ支配が拡大していったが、ディポネゴロの指導するジャワ戦争(1825~1830年)やスマトラ島でのアチェ戦争(1873~1912年)など頑強な抵抗にあった。
- ③ フランス
  - 1802年、 [ ] はフランス人宣教師ピニョーの支援を得て阮朝越南国(ベトナム)を建てた。
  - [ ] は宣教師迫害を口実に派兵し(1858年)、1862年にサイゴン条約を結んでキリスト教の自由およびサイゴンを含むコーチシナ(メコン川下流域)東部の割譲を認めさせた。次いで1863年にカンボジアを保護国化し、1867年にはコーチシナ西部をも獲得した。
  - 1883年のユエ条約でベトナムを保護国化したため、翌1884年に [ ] (1884~1885年)がおこった。フランスは勝利し、1885年の天津条約で清はフランスの保護国化を認めた。
  - フランスは1887年、カンボジアとベトナムからなる [ ] を創設した(総督府はハノイ)。次いで1893年にラオスを保護国化し、1899年にラオスを [ ] に編入した。
- ④ イギリス
  - ナポレオン戦争後のウィーン議定書(1815年)で [ ] からセイロンを獲得した。
  - 3度にわたるビルマ戦争(1824~1886年)によってコンパウン朝を滅ぼし、1886年にインド帝国に編入した。
  - マレー半島では、1826年にペナン島・ [ ] ・ [ ] からなる海峡植民地を形

成し、さらに1895年に半島内部の諸侯国を服属させて [ ] を形成した。

- ① タイ……18世紀後半にチャクリが建てたバンコク朝は、英・仏の緩衝地帯ということもあって東南アジアで唯一独立維持することができた。1868年に即位した [ ] (チュラロンコーン)は独立の維持と、タイの近代化に努めた。

## 2 東アジアの激動

### この講の流れ図



#### (1) 列強の中国進出と混乱

##### ① アヘン戦争

- 清は廣州1港で、公行(特許商人組合)とのみ貿易を許可した。貿易制限や茶の輸入による銀流出に悩むイギリスは18世紀末に [ ] を、19世紀初めにアモーストを派遣し交渉したが成果はなかった。
- イギリス商人らは銀を回収するため、中国の茶をイギリスへ、イギリスの綿製品をインドへ、インド産アヘンを清に運ぶ [ ] を行って莫大な利益をあげた。
- アヘンの流入による社会不安や銀流出を打開するため清朝は、1839年に [ ] を廣州に派遣し、イギリス商館からアヘンを没収するなど強硬手段にでた。こうして翌1840年にアヘン戦争が勃発した。
- アヘン戦争に勝利したイギリスは1842年の [ ] で廣州・福州・廈門・寧波・上海の5港開港、公行の廃止、 [ ] の割譲などを認めさせた。
- イギリスはさらに1843年に五港通商章程と虎門塞追加条約を結び、一方的に [ ] (治外法権)・最惠国待遇(経済的優先権)・協定関税(清朝の関税自主権喪失)を認めさせた。翌1844年、アメリカが同様な内容を持つ [ ] を、同じくフランスが [ ] を結んだ。

##### ② アロー戦争

- 1856年にフランス人宣教師殺害事件が、次いでイギリス船籍を主張する船が清朝官憲に海賊容疑で臨検されるというアロー号事件がおこった。これを理由に英・仏は清と戦って勝利し、1858年に [ ] を結んでキリスト教布教の自由、外国公使の [ ] 駐在、南京など10港の開港を認めさせた(なお、戦闘には参加しなかったが、この条約には米・露2国も加わった)。
- ロシアはアロー戦争中の1858年、東シベリア総督ムラヴィヨフの活躍もあって清朝と [ ] を結び、黒竜江以北の地を獲得した。
- 清朝軍の一部が英・仏の外交使節を攻撃したことから戦闘が再開し、1860年に英・仏軍は北京を占領して、円明園を破壊した。結局、ロシアの調停があって清朝は英・仏・露3国と [ ] を結び、1858年調印の [ ] の批准、天津の開港追加、イギリスへの [ ] 半島南部割譲、ロシアへの [ ] 割譲を認めた。

### ③ 太平天国たいへいてんこくの乱

- 広東省花県出身の [ ] はキリスト教的宗教結社である上帝会じょうていかいの信者を率い、1851年に広西省きんてんせんの金田村きんたむらで挙兵し、[ ] をスローガンに国を建て太平天国と号した。
  - 1853年、[ ] を占領して天京と改称し、都とした。次いで土地の均分・男女平等などを内容とする [ ] を発布した。
  - 反乱軍は曾國藩そうこくはんの率いた湘軍しやうぐんや李鴻章りこうしやうの率いた [ ] など郷勇きやうゆうやアメリカ人ウオード、次いでイギリス人ゴードンが率いた [ ] の活躍などで、1864年までに鎮定された。
- ④ 洋務運動……清朝は外交事務を処理する總理各国事務衙門がもん(1861年)を設ける一方、近代化運動を展開した。その中心は太平天国の乱の鎮定に活躍した曾國藩・李鴻章・左宗棠さそうたうなどの漢人官僚で、彼らは「[ ]」を基本理念として、西洋の科学・技術を導入し富国強兵を図ろうとした。こうして1860年代から1870年代にかけ内外政治が安定し、洋務運動が進展したので皇帝の名にちなんで [ ] とよばれる。

### (2) 朝鮮の開国と日清戦争

#### ① 朝鮮の開国

- 李氏朝鮮では、1860年代から1870年代にかけ国王高宗の実父 [ ] が、次いで外戚の閔氏がいせき (皇后閔妃きんぎの一族)が政権を握ったが、欧米諸国の開国要求に対して攘夷政策を続けた。
- 1875年、日本の軍艦の挑発で日朝両軍が衝突するという [ ] がおき、翌1876年日本は日朝修好条規によって [ ] ・仁川じんせん・元山げんざんの開港と領事裁判権を認めさせた。
- 開国後、朝鮮国内では反日・反閔氏の兵士たちの [ ] (1882年)や金玉均きんぎくみんら開化派による閔氏政権打倒の [ ] (1884年)がおこった。いずれも、清国軍の出動で鎮定されたが、これによって朝鮮への勢力拡大をめぐる日清の対立は深まった。

#### ② 日清戦争

- 1894年、朝鮮半島では全瑋準ぜんはいじゆん(チョンボンジュン)の指導する東学党とうがくとうを中心とした [ ] がおこった。朝鮮政府の要請で清国軍が出動すると、朝鮮半島への出兵の際には事前通告することなどを約束した1885年の日・清間の天津条約に基づき日本も出兵した。
- 1894年、朝鮮半島での日・清両軍の衝突から全面戦争へ突入し日本が勝利した。翌1895年、伊藤博文いとうひろふみと李鴻章の間で [ ] が結ばれ、清国は朝鮮の独立を認め、日本に遼東半島・台湾・澎湖諸島を割譲し、賠償金を支払うことを約束した。しかし、ロシア・ドイツ・フランスの [ ] が行われ、日本は遼東半島を清国に返還した。

## point

清国に関わる条約とその内容を憶えないことには、アジア近代史で高得点は望めない!

南京条約(1842年)……イギリス。広州・上海・福州・廈門・寧波の開港、香港の割譲、公行の廃止。次いで1843年に五港通商章程で領事裁判権、虎門塞追加条約で最恵国待遇・協定関税を承認。

望厦条約(1844年)……アメリカ。修好通商条約。領事裁判権・最恵国待遇など。

黄埔条約(1844年)……フランス。修好通商条約。領事裁判権・最恵国待遇など。

アイゲン  
愛理条約(1858年)……ロシア。黒竜江(アムール川)以北の地をロシアに割譲。

天津条約(1858年)……英・仏・露・米4国。南京など10港の開港、公使の北京駐在、キリスト教布教の自由など。

北京条約(1860年)……英・仏・露3国。天津条約の批准、天津の開港追加、イギリスに九竜半島南部割譲、ロシアに沿海州(ウスリー江以東)割譲。

天津条約(1885年)……フランス。ベトナム(阮朝越南国)に対する宗主権を放棄。

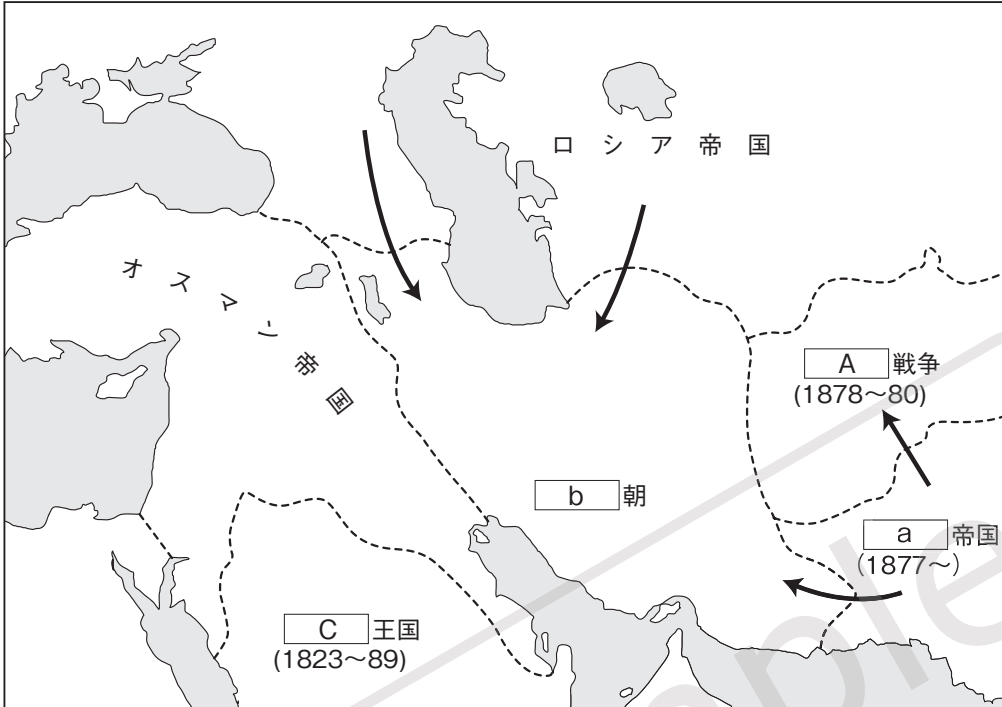
天津条約(1885年)……日本。朝鮮半島への出兵の際には相互に事前通告することなど。

下関条約(1895年)……日本。朝鮮の自主独立、日本に遼東半島・台湾・澎湖諸島割譲、賠償金支払いなど。

# 確認問題

**1** 次の2つの地図中のa～cにあてはまる国名または王朝名, Aにあてはまる戦争の名称を書け。

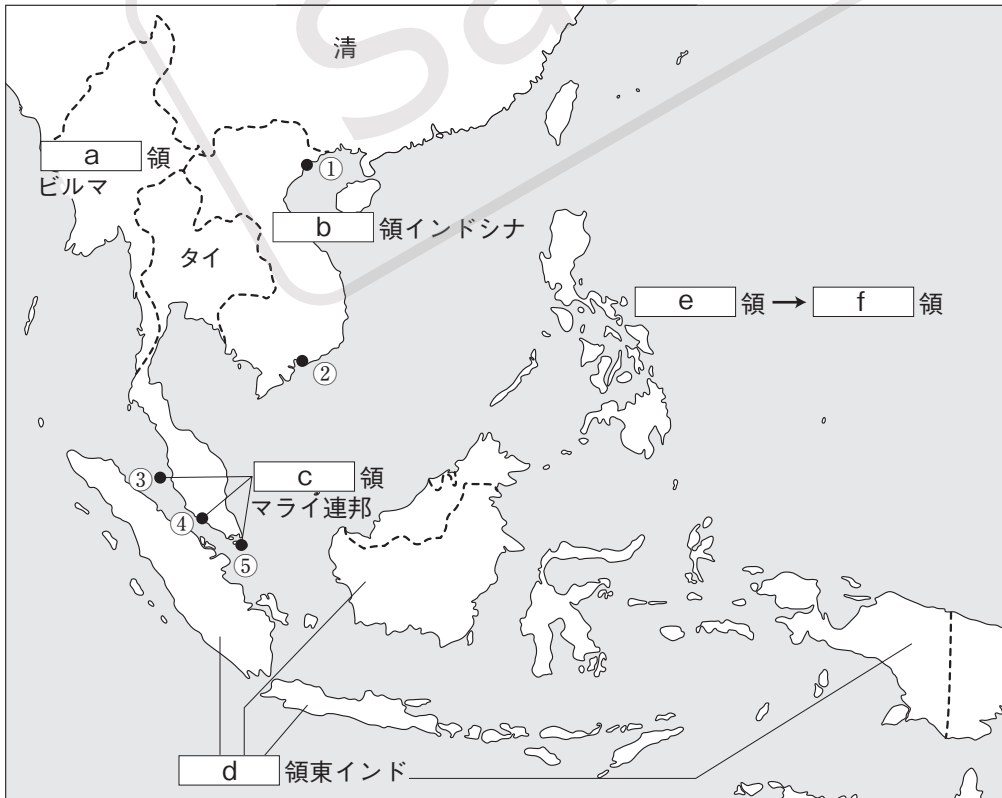
▼19世紀後半から20世紀初頭の西アジア



- 1**
- a \_\_\_\_\_ 帝国
- b \_\_\_\_\_ 朝
- c \_\_\_\_\_ 王国
- A \_\_\_\_\_ 戦争

**2** 次の地図中の①～⑤にあてはまる都市または島名, a～fにあてはまる国名を書け。

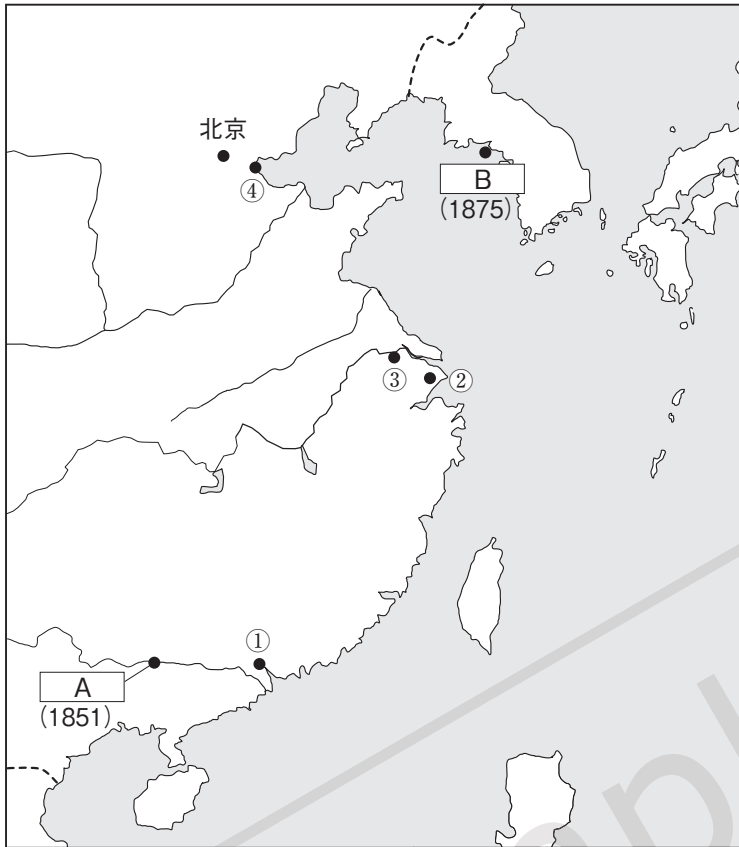
▼列強による東南アジアの植民地化



- 2**
- ① \_\_\_\_\_
- ② \_\_\_\_\_
- ③ \_\_\_\_\_ 島
- ④ \_\_\_\_\_
- ⑤ \_\_\_\_\_
- a \_\_\_\_\_
- b \_\_\_\_\_
- c \_\_\_\_\_
- d \_\_\_\_\_
- e \_\_\_\_\_
- f \_\_\_\_\_

**3** 次の地図中の①～④にあてはまる都市名，A・Bにあてはまる事件の名称を書け。

▼19世紀の東アジア情勢

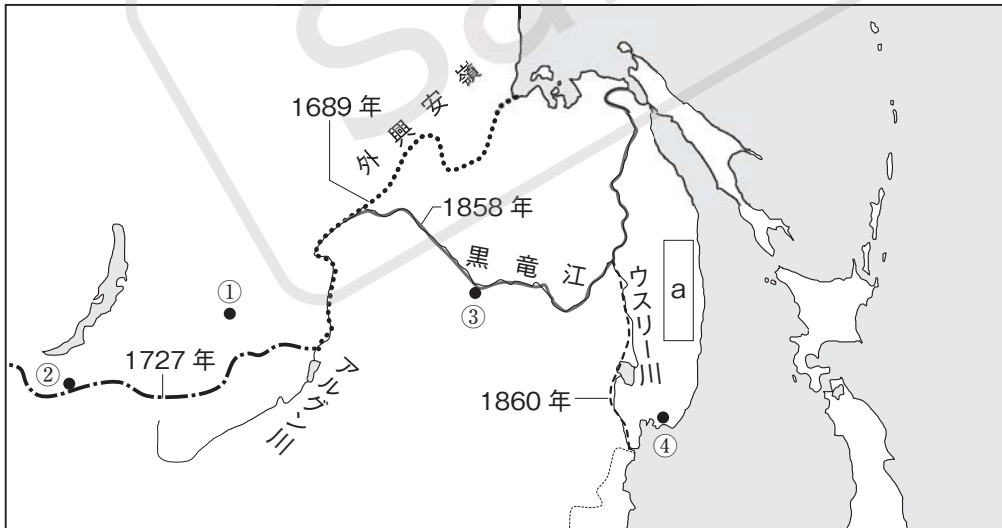


**3**

- ① \_\_\_\_\_
- ② \_\_\_\_\_
- ③ \_\_\_\_\_
- ④ \_\_\_\_\_
- A \_\_\_\_\_
- B \_\_\_\_\_

**4** 次の地図中の①～④にあてはまる条約の調印地名，aにあてはまる地域名を書け。

▼露清間の国境に関する条約



**4**

- ① \_\_\_\_\_
- ② \_\_\_\_\_
- ③ \_\_\_\_\_
- ④ \_\_\_\_\_
- a \_\_\_\_\_

# 演 習 問 題

1 西アジアの情勢 オスマン帝国とその周辺地域に関する次の文章を読み、以下の設問に答えよ。

オスマン帝国は、17世紀末の第2次( ㉞ )包囲の失敗やカルロヴィッツ条約による( ㉟ )の喪失<sup>そうしつ</sup>以降衰勢に向かった。その後、a18世紀後半ロシアにも大きな領土を奪われ、さらに、b19世紀になってヨーロッパ諸国の進出や支配民族の独立などにより多くの領土を失った。そのような中でオスマン帝国の遅れを痛感した。cアブデュル=メジト1世は、近代化政策を開始したが、大きな成果を上げることはできなかった。隣接するイランでは18世紀末に、d新王朝が誕生したが、英・露両国の進出にさらされ、e多くの利益を奪われた。国内ではそうした王朝に反発して、f民衆反乱<sup>そん</sup>がおこり、一時国内は騒然<sup>ぜん</sup>とした。しかし、英・露の進出は止まず、またシャーの専制体制も変わらなかった。

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	
(6)	
(7)	

(1) 空欄( ㉞ )・( ㉟ )にあてはまる地名として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ㉞—ウィーン      ㉟—ポーランド
- ② ㉞—ウィーン      ㉟—ハンガリー
- ③ ㉞—ワルシャワ    ㉟—ポーランド
- ④ ㉞—ワルシャワ    ㉟—ハンガリー

(2) 下線部 a に関連して、18世紀後半のエカチェリーナ2世の時代のロシアに奪われた地域として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ドナウ川下流域      ② タラス川下流域
- ③ カスピ海北岸      ④ 黒海北岸

(3) 下線部 b に関連して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① エジプトはギリシア独立戦争を支援した。
- ② エジプトはシリアの統治権をめぐってオスマン帝国と戦った。
- ③ 1877年におこった露土戦争でアルバニアが独立した。
- ④ 1877年におこった露土戦争の講和条約はペテルブルク条約である。

(4) 下線部 c の近代化政策を何というか。漢字4字で記せ。

(5) 下線部 d の新王朝の名称として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① サファヴィー朝      ② ブワイフ朝
- ③ カージャー朝      ④ サーマーン朝

(6) 下線部 e に関連して、この王朝が1828年にロシアと結んだ条約名を記せ。

(7) 下線部 f に関連して、この反乱の主体となった集団の名称として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① イェニチェリ      ② マムルーク
- ③ シク教徒          ④ バーブ教徒



**2 インド・東南アジア** 列強のインド・東南アジア進出に関する以下の設問に答えよ。

2

(1) ヨーロッパ列強のインド進出について述べた文 a・b の正誤の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- a フランスはインド西岸のマドラスに根拠地を築いた。  
 b イギリスはプラッシーの戦いに勝利してインドの覇権<sup>はけん</sup>を握った。

- ① a—正 b—正    ② a—正 b—誤  
 ③ a—誤 b—正    ④ a—誤 b—誤

(2) イギリスのインド統治について以下の設問に答えよ。

- (i) イギリスのインド進出と統治にあたった組織を何というか。  
 (ii) (i)の組織は1858年に解散されたが、そのきっかけとなった事件を何というか。

(3) 列強の東南アジア進出について述べた文 a・b・c の正誤の組合せとして正しいものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

- a オランダはスマトラ島で強制栽培制度を始めた。  
 b スペインはマカオを根拠地としてフィリピンを支配した。  
 c イギリスはシンガポールを拠点に海峡植民地を形成した。

- ① a—正 b—正 c—正  
 ② a—正 b—正 c—誤  
 ③ a—正 b—誤 c—誤  
 ④ a—誤 b—正 c—誤  
 ⑤ a—誤 b—誤 c—正  
 ⑥ a—誤 b—誤 c—誤

(4) 東南アジアで唯一独立を維持した王国の国名を書け。

(1)	
(2)	(i)
	(ii)
(3)	
(4)	

**3 東アジア** 列強の進出に動揺する東アジアに関する以下の設問に答えよ。

3

(1) 19世紀前半における清国について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① イギリスのマカートニーが、貿易の交渉のため来朝した。  
 ② インド産アヘンの流入で、大量の銀が流出した。  
 ③ 列強との戦いに敗れて、上海や南京を開港した。  
 ④ 清仏戦争の天津条約でベトナムの宗主権<sup>ほうき</sup>を放棄した。

(2) 19世紀後半の朝鮮半島について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 国王の実父の大院君が一時政権<sup>しやうあく</sup>を掌握していた。  
 ② 金玉均ら保守派による甲申政変がおこった。  
 ③ 日朝修好条規(江華条約)で釜山ほか2港を開港した。  
 ④ 京学党を中心とする甲午農民戦争がおこった。

(3) 日清戦争に関する以下の設問に答えよ。

- (i) 講和交渉にあたった中国側代表は誰か。  
 (ii) 講和条約で日本が得た領土は台湾・澎湖諸島ともう一つはどこか。

(1)	
(2)	
(3)	(i)
	(ii)